

第九飛行師團戦史資料

9FA
40

0074

第九飛行師團戰史資料

一九四七、三月
神笠中佐

前書

小官ハ一九四四年六月第三航空軍參謀トナリ同年十月第九飛行師團參謀更ニ翌四五年即チ終戰時ノ七月末同師團參謀長トナリ終戰後ノ處理ニ任シ翌四六年三月馬來ニ渡リ南馬軍内ノ一隊長タリ

從ツテ師團戰史ニ就テハ関知シ得サル所モアリ又其ノ後時日ノ經過ニ伴ヒ記憶シアラザル所多ク何等資料ナキアルニ於テ之ヲ記セシモノナルコトヲ予メ諒トセラレ度

一師團ノ編成

(一)一九四三年十二月頃概略ノ編成ヲ終リ四四年一月ヨリ司令部ヲパレンバンニ置キ統帥ヲ發動セリ(當時既ニパレンバン防衛隊アリ其ノ上ニ司令部ヲ設置セラレタルモノナリ)

(四)司令部主要職員左ノ如シ

	師團長	陸軍中將	鳥田隆一	(自當初)
"	"	"	橋本秀信	(自四四年九月)
"	"	"	白銀重二	(自四五年七月)
"	參謀長	陸軍大佐	河邊忠三郎	(自四五年一月初)
"	"	"	長濱秀明	(自四五年七月)
"	"	陸軍中佐	神笠武登	(自四五年七月)
"	兵器部長	陸軍中佐	菅原 ?	(自四五年一月初)
"	"	陸軍大佐	海老原 好	(自四五年一月初)
"	經理部長	陸軍 ^{主計} 中佐	羽柴虎十郎	(自終)
"	軍醫部長	陸軍 ^{軍醫} 大佐	内田久雄	(自終)
"	先任參謀	陸軍中佐	松元 ?	(自四四年十月初)
"	作戰主任參謀	"	小島 ?	(自四四年秋初)
"	"	"	内藤 ?	(自四四年六月)
"	"	"	神笠武登	(自四四年七月)

(新谷 武 東京)

0076

陸軍

陸軍少佐黒川信夫

(自四五年七月)

情報主任參謀

(自當戰初)

後方主任參謀

藤原

(自當戰初)

杉本清士

(自四年三月)

高射砲關係參謀陸軍中佐 戸嶋石根

(自四五年三月初旬)

二兵力編組及其ノ増減左ノ如シ

(一九四四年初頭)

司令部(司令官陸軍少將 中島嘉樹)

飛行第八七戰隊(二單戰四〇)

飛行第二(戰隊(二複戰四〇)

パレンバン

獨立飛行第二四中隊(一式戰一五)

防衛隊

高射砲隊第百一乃至第百陸隊

獨立機關砲隊第百一大隊

第百一氣球中隊

パレシバン防衛通信隊

警備隊

司令部 (司令官陸軍大佐梅津)

パンカラングラン 獨立飛行第七十中隊 (戰一五)

タン防衛隊 高射砲第四聯隊 (當初ハ獨立大隊)

獨立機關砲隊百ニ大隊

パンカラングランタン防衛通信隊

警備隊

第八飛行團 飛行第五ニ戰隊 (九七重三〇)

飛行第六〇戰隊 (三〇)

以上 飛行機數合計一七〇機

第八航空地區司令部 (北スマトラ方面飛行場大(中)隊)

(總務員・事務)

0078

第二十二航空地區司令部（南及中スマトラ方面飛行場大（中隊）
第十四航空聯隊

(四)一九四四年六月—十月下旬

1. 六月飛行第六〇戰隊ハニューギニヤ方面ニ移動セリ

2. 六月飛行第二六戰隊（一式戰三〇）内地ニ於テ軍偵ヨリ改裝
セルモノヲバ防ニ増加ス

3. 飛行第三三戰隊ハ二月頃第三航空軍隸下ヨリニューギニヤ
ニ轉進シ六月歸還シ師團ノ指揮下ニ入ル（バ防ニ配屬）

4. 七月獨立飛行第七四中隊（司偵一五）内地ヨリ到着シ師
團ノ隸下ニ入ル（バレンバンニ置ク）

5. 九月上旬^{獨立}第八教育飛行團比島ヨリスマトラニ來リシモ
再編ノ見込立タズ十二月ニ至リ全部解組セラレタリ

（第三一乃至第三三及第三四三教育飛行隊ハ練習機、
第一五練成飛行隊ハ百式司偵）

6. 十月初飛行第二二戦隊ハ、セレベス、方面ニ轉用セラレタリ
久十月下旬左記部隊ハ比島ニ轉用セラレタリ

左記

飛行第二六戦隊(一式戦二三)

飛行第三三戦隊()

獨立飛行第二四中隊(一式戦一二)

(ハ)一九四四年十月下旬ノ航空戦力

飛行第八七戦隊(二單戦四〇)

飛行第二一戦隊残(ニ複戦若干)

飛行第二六戦隊残(ナシ)

飛行第三三戦隊及獨立飛行第二四中隊残(一式戦若干)

パン防、獨立飛行第七(中隊)(一式戦一五)

獨立飛行第七四中隊(司偵一五)

飛行第五八戦隊(九七重三〇)

以上飛行機合計約一〇〇機

右ノ外北スマトラ方面敵ノ上陸防禦ニ協力スル爲第ニ航空軍ニ於テ「セ」號作戦計畫ナルモノ樹立セラレ教育及補充飛行隊ノ一部必要ニ應ジ北スマトラニ集中シ來リテ師團ノ指揮下ニ入ル

其ノ主ナルモノ左ノ如シ

第一野戦補充飛行隊

輕爆隊 (双輕一五)

(在馬來)

重爆隊 (九七重一五)

司復隊 (司復一〇)

ノ一部機ニ使用

第一六教育飛行隊 (百重三〇)ノ一部

第百六教育飛行團

第七

(練習機三〇)ノ使用

(在ジャバ)

第三四乃至第三六 (同 右)ノ一部

第九練成飛行隊 (一式戦一五)ノ一部

「バレンバン」方面ニ在リ

尚馬來ニ在リ第百九教育飛行團 (第四四乃至第四六教育

飛行隊及第八練成飛行隊)アルモ第八練成飛行隊 (二單

戦一五)ノミ作戦ニ使用シ得ルモノシガホル防空ニ使用セラレ

アリ

(三)一九四四年十二月頃

一、十二月飛行第二六及第三三戦隊並ニ獨立飛行第二十四

中隊比島ヨリ歸還セリ各隊飛行機ハ数機ニ減少シ

アリ

二、次テ同月飛行第二二戦隊「セ」レビスヨリ歸還セリ是亦

数機ニ減少シアリ

三、十二月飛行第五八戦隊ハ第五飛行師團 (緬甸方面)

ニ轉用セラル

(ホ)一九四五年一月頃ノ師團航空戦力

一、飛行第八七戦隊 (二單戦四〇)

(續前頁・京野)

陸軍

飛行第二一戰隊 (二複戰三五)

飛行第三三戰隊 (一式戰一〇)

飛行第二六戰隊 (〃六)

獨立飛行第二四中隊 (〃)

實動可能ハ
四〇五〇三機
ギズ

パン防 獨立飛行第七一中隊 (一式戰一五)

獨立飛行第七中隊 (百偵一五)

以上 飛行機合計約一三〇機

(一)一九四五年六月下旬沖澗作戰協力ノ爲左記部隊轉用也

飛行第二一及第二六戰隊

獨立飛行第二四中隊

獨立飛行第七一中隊

又飛行第三三戰隊ハ解体ノ止ムナキニ至リ殘余人員ノ

器材ヲ飛行第二六戰隊殘置隊ニ合セリ

(ト)終戦時(一九四五年八月)ノ航空戦力

飛行第八七戦隊(二単戦 三〇)

飛行第二二戦隊残(二複戦 一〇)

飛行第三六戦隊残(一式戦 一〇)

パン防 獨立飛行第七一中隊残(一式戦 一〇)

獨立飛行第七四中隊 (百偵 一三)

以上 飛行機合計約七〇機

(子) 装備ノ改変

一九四四年末頃ヨリ飛行機ノ損害(比島、セレス等)
第四航空軍方面ニ轉用セラレタ結果ニシテ、スマトラニ
於テ作戦上ノ損害ハ少シ甚タシク加フルニ内地ヨリ補
給逐次減少シ一九四五年ニ於テハ皆無ニ近シ

(新谷 眞一)

0083

依テ止ムナク各隊保有ノ練習機及使ヒ古シノ戦闘機ニ爆
彈及射撃裝備ヲ施シ敵航母等ニ体當リ戦法ヲ以テ
防衛スルノ手段ヲ採リ一九四五年六月頃概ネ不完整セリ

又機種改変トシテ飛行第八七戦隊及獨立飛行隊等
ニ四中隊ノ一式戦ヨリ四式戦ヘノ改変企圖セラレタルモ補給
ナク中止ス

一式戦及百偵ハ夫々Ⅱ型ヨリⅣ型ニ其ノ若干機ヲ改変セリ
三、作戰任務

一、スマトラ石油地帯ノ防空

二、印度洋ノ哨戒

三、主トシテペラワン、シンガポール間及、パダン、バタビヤ間

ノ船團掩護

四、第二十五軍ノ地上防空ニ協力

馬來中部ニ出勤シ得

四 作戰部署

1. 石油資源防空ノ爲メ、パレンバン及マバンカラ、ランブランダニ防衛隊ニ飛行機及高射砲ヲ固定的ニ配屬シ、其ノ航空兵力ヲ他ニ轉用スルハ上司ノ許可ヲ要セリ。一九四五年ニ入り師團長ノ責任ニ於テ一部ノ航空兵力ヲ航母攻撃隊ノ爲メ作戰地域内ニ於テ移動シ得ルニ至レリ。
2. セレ號作戰計畫(北スマトラ方面上陸防禦協力)ハ第三航空軍ノモノニ依ラレタシ。
3. 中スマトラ西海岸ニ於ケル防衛協力作戰ハ極メテ一部(飛行三三戰隊及當時マダニニ在ルノAFノ輕爆隊)ニ使用ス。

(納谷真・整理)

0085

又南スマトラニ於テハ「プラジユ」製油所ノ防空ヲ主トシ
且地上防禦ノ計畫ヲ有セリ(細部ハ黒川參謀ニ依ラレ度)
五、作戰實施

「プラジユ」製油所ノ空襲ニ對スル狀況 (一九四四年八月)ニ就
テハ別冊ニ依ラレ度

一九四四年八月及九月下旬「カリニコバル」島附近ニ於テ敵
海上機動部隊ノ來襲ニ對シ八月ハ我カ航空戦力ヲ
北スマトラニ集中完了セザル前ニ敵艦視界ヲ去レリ
九月ノ際ハ我カ戦闘機四機(指揮官阿部中尉)敵数機
ヲ撃墜破シ最後ニ敵戦艦及驅逐艦各一二對シ体
當リ攻撃ヲ敢行シ之ヲ撃沈又ハ大破炎上セシメ全員玉
碎セリ

爾後「カリニコバル」島ニハ常時三ノ四機ノ戦闘機ヲ配置

貯油量大ニシテ補給ニハ大ナル支障ナシ但シ船舶ノ回航
ナク徒ラニ貯油シアルノミ

一九四五年ハ主トシテ他方面ニ轉進スル飛行機ノ整備部
隊ノ編合等後方補給ニ忙殺シ逐次頻繁ニ來襲
シ瞬時ニ去リ行ク敵飛行機及敵艦ニ對シテハ常時ニ
後手トナリ大ナル戦果ヲ擧ケ得ズ一方常時防空ノ
任務ハ神護ヲ勞スルコト大ナルモノアリテ一月ヲ「ラジエ」
空襲ノ際ノ戦果ヲ除キ他ニ特記スヘキ作戦ハナカリシ
モト眞實ノ狀況ハ相當深刻ナル防衛任務ニ苦慮
セラレタリ